

論文内容要旨（和文）

2019年度入学 大学院博士後期課程

ものづくり技術経営学専攻

氏 名 劉 利

印

論 文 題 目 中国における高齢者介護ニーズと介護サービス利用の影響要因に関する研究

日本の介護保険制度は 2000 年に導入され、要介護者がサービスを自由に選ぶ「準市場」が社会的に創出されることになった。準市場とは、部分的に市場原理を取り入れる一般市場と異なる市場を指す概念である。医療や福祉などの公的サービスが提供される状況では、独占的状況が起きやすく、サービスが画一化する等の欠点がある。このため、市場メカニズムを導入する方向で欠点を補おうとする意図で政策設計された。また、市場メカニズムの導入により公的サービスのコスト負担の低減が期待されている。このような準市場は、一般市場と異なる要因が強く影響する新しい分野であるため、多くの研究が取り組まれている。

中国においても 2021 年に高齢社会へ突入し、中国政府は 2025 年までの介護保険制度の全国導入を目指している。同時に、「在宅介護」を基礎とする介護サービスシステムの構築を図っており、高齢者をできるだけ住み慣れた環境で介護を受けさせるという理念は、日本の「地域密着型サービス」と共通している。本研究は、これから本格化する中国の準市場形成に向けて、マーケティングの基礎理論に基づき、高齢者介護ニーズと介護サービスの影響要因とそのメカニズムを明らかにしようとするものである。

本論文は 5 章により構成される。

第 1 章 序章では、研究の背景と問題意識、本研究の基本的視点となる市場の細分化と消費者行動の理論基礎について、その概要をまとめた。

第 2 章では、中国における高齢化と高齢者介護の実態について、諸統計データ等により明らかにした。同時に、高齢者介護問題とその対策についても明らかにした。

第 3 章では、北京大学が中国全国で調査し公開している「中国健康和養老追跡調査」（以下 CHARLS と略称する）のオープンデータを用いて、生活ケア、医療ケア、精神的ケアのように多様化している介護ニーズについて、中国における高齢者介護ニーズとその影響要因を市場セグメンテーションや消費者行動論に基づく独自の視点で分析して得た結果を明らかにした。

第 4 章では、同様に CHARLS のデータを用いて、在宅介護、社区介護、施設介護という三つのサービス方式の違いに着目し、高齢者介護サービス方式とその影響要因について、市場セグメンテーションや消費者行動論に基づく独自の視点より分析して得た結果を明らかにした。

第 5 章では、本研究全体を通して得られた結果を考察し明らかにしたとともに、本研究の意義並びに今後の課題について述べた。

論文内容要旨 (英文)

2019年度入学 大学院博士後期課程

ものづくり技術経営学専攻

氏 名 劉 利



論文題目 Research on factors influencing elderly care needs and use of care services in China

Japan's long-term care insurance system was introduced in 2000, creating a "quasi-market" in society in which care recipients freely choose services. A quasi-market is a concept that refers to a market that partially incorporates market principles and is different from the general market. In situations where public services such as medical care and welfare are provided, there are disadvantages such as monopolistic situations and uniformity of services. For this reason, policies were designed with the intention of compensating for these shortcomings by introducing market mechanisms and to reduce the cost burden of public services.

China is also undergoing rapid aging, and entered to an "aging society" in 2021. The Chinese government aims to introduce a long-term care insurance system nationwide by 2025. As a result, a "quasi-market" for elderly care similar to that in Japan is supposed to be socially created in China. Furthermore, China's basic policy of home nursing care is quite similar to Japan's philosophy of "community-based services."

This study aims to clarify the current state of elderly care needs and the use of nursing care services in China under the background of nationwide introduction of the long-term care insurance system and the formation of a quasi-market. Based on basic marketing theories, the author analyzed the factors that influence elderly care needs and the use of care services, and suggested marketing directions that suit the characteristics of the elderly.

This paper consists of five chapters.

Chapter 1 provided an overview of the background and problem awareness of the research, as well as the theoretical foundations of market segmentation and consumer behavior, which are the basic perspectives of this research.

In Chapter 2, the author used various statistical data to clarify the reality of aging and elderly care in China. At the same time, the author clarified elderly care issues and countermeasures.

In Chapter 3, the author used open data of the China Health and Retirement Longitudinal Study (hereinafter abbreviated as CHARLS), which is conducted nationwide by Peking University, to examine the diversifying elderly nursing care needs such as daily care needs, medical care needs, and psychological care needs. Based on market segmentation and consumer behavior theory, the author analyzed the influencing factors of elderly care needs in

China from a unique perspective.

In Chapter 4, by using the data of CHARLS, the author examined the use of home care service, community care service, and facility care service of elderly in China, and analyzed the factors that influence the use of care services based on market segmentation and consumer behavior theory.

In Chapter 5, the author concluded the results obtained throughout this research and future research topics.

学位論文の審査及び最終試験の結果の要旨

令和 6 年 2 月 9 日

理 工 学 研 究 科 長 殿

課程博士論文審査委員会

主査 小 野 浩 幸 印
副査 野 田 博 行 印
副査 高 澤 由 美 印
副査 印
副査 印

学位論文の審査及び最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

論 文 申 請 者	専攻名 ものづくり技術経営学専攻 氏名 劉 利		
論 文 題 目	中国における高齢者介護ニーズと介護サービス利用の影響要因に関する研究		
学位論文審査結果	合格	論 文 審 査 年 月 日	令和 6 年 1 月 1 7 日～ 令和 6 年 2 月 3 日
論 文 公 聴 会	令和 6 年 2 月 3 日	場 所	国際事業化研究センター B 講義室
最 終 試 験 結 果	合格	最 終 試 験 年 月 日	令和 6 年 2 月 3 日

学位論文の審査結果の要旨 (1,000 字程度)

本研究は、高齢化が本格化する中国を対象として、準市場形成に向けて、高齢者介護ニーズと介護サービス利用の影響要因とそのメカニズムを明らかにしようとするものである。なお、準市場とは、部分的に市場原理を取り入れる一般市場と異なる市場を指す概念である。

第 1 章では、研究の背景と問題意識、本研究の基本的視点となる市場の細分化と消費者行動の理論基礎、先行研究と本研究の位置付けについて述べている。

第 2 章では、中国における高齢化と高齢者介護の実態を明らかにしている。諸統計データにより実態を明らかにするとともに、中国における高齢者介護問題とその対策についても明らかにしている。

第 3 章では、北京大学が中国全国で調査した「CHARLS 中国健康と養老追跡調査」のオープンデータを用い、生活ケア、医療ケア、精神的ケアと多様化する介護ニーズについて、市場セグメンテーション理論や消費者行動理論に基づく独自の視点で分析して得た結果からその影響要因を明らかにしている。

第 4 章では、在宅介護、社区介護、施設介護という三つのサービス方式の違いに着目し、高齢者介護サービス方式について、市場セグメンテーション理論や消費者行動理論に基づく独自の視点より分析して得た結果から、その影響要因を明らかにしている。

第 5 章では、本論文全体の結論をまとめ、本研究で得られた結果の意義並びに今後の課題について述べている。

中国では、2025 年までの介護保険制度の全国導入が目指されており、同様に準市場の形成が想定されている。このため、本研究は時機を得たものであり新規性が認められる。これらの研究成果は、2 報の査読付論文として専門学術誌に掲載された。

このように、研究テーマには新規性・独自性があり、論文では自ら研究を計画・遂行するための専門的知識をもって、研究背景・目的が正しく述べられていた。学位論文の構成は適切で、体裁も整っており、記述が論理的で、設定した研究テーマに沿って明確な結論が述べられていた。したがって、博士論文審査基準を全て満たしていると判断し、合格と判定した。なお、本論文は、研究倫理又は利益相反等に係る学内規則に基づく手続きは必要ありません。

最終試験の結果の要旨

最終試験は、発表 (50 分) 後に、学位論文を中心とし、関連のある学術的内容について、主査及び副査からの口頭試問により行った。時間は約 30 分であった。いずれの問題に対しても、十分な根拠をもって明確に回答がなされ、主査及び副査が全員一致して博士の学位を授与するのに十分な知識と能力を有していると判断した。

以上をもって、最終試験を合格と判断した。